

ウィークリー・ブレッド・オブ・ライフ

(2024年10月21日(月)～27日(日))

岸和田聖書教会

牧師 栗原純人

「ブレッド・オブ・ライフ」とは「いのちのパン」(ヨハネ 6:48)。「わたしはいのちのパンです」と言われるイエス・キリストさまをみことばによって食しましょう。今日一日の力です。以下の手順を参考に聖書を読みましょう。

1. 静まります。「しかし私は 義のうちに御顔を仰ぎ見 目覚めるとき 御姿に満ち足りるでしょう。」(詩篇 17:15)
2. 声に出してその日の聖書日課を読みます。
3. 気づいたこと、わからないことなどをノートに箇条書きし、その後『みことばの光』、このブレッド・オブ・ライフの文章を読みます。わかったことがあったら、さらに書いてみましょう。
4. もう一度、聖書日課を読みます。違う響きがあるでしょうか？
5. 祈りましょう。実際に声に出して。そして祈りの中心部分を書いてみましょう。一日の終わりに、今朝の聖書を思い起こし、みことばがどのように生きたか、思い巡らしましょう。

イザヤ書を読み続けます。「イザヤの語ることを見ていると、破滅を宣告する厳しさが語られたかと思えば、神が与えてくださる救いの希望が告げられ、右へ左へと振り回される思いがする。それほどに、人々の状態は深刻で、人の知恵や力では打開できない暗黒に陥っているのだと痛感させられる。」(『みことばの光』10月号より)。このことを念頭に読み続けましょう。

10月21日(月)

今日の聖書日課：イザヤ 28：1～29

主は彼らに告げられる。「ツァウにツァウ、ツァウにツァウ、カウにカウ、カウにカウ、あっちにゼエル、こっちにゼエル。」これは、彼らが歩くときにうしろに倒れて砕かれ、罨にかかって捕らえられるためである。

イザヤ 28：13

なんででしょう？これ。主は意味を失ったことばを、わけのわからないことばを民に語ります。それは、彼ら自身が主のみことばを、わけのわからないことばとして退けたからです。「ツァウにツァウ…」とは、民が先に主に言ったことば(10)。神さまは私たちに意味のあることば、わかることば、しかし厳しくて、痛いことばを語られます。これをしっかり受けとめましょう。そうでないと、神さまもまた、同じようにわけのわからないことばで返されるのです。そこに助けはありません。

10月22日(火)

今日の聖書日課：イザヤ 29：1～24

主は言われた。「それは、この民が口先でわたしに近づき、唇でわたしを敬いながら、その心がわたしから遠く離れているからだ。彼らがわたしを恐れるのは、人間の命令を教え込まれてのことである。」

イザヤ 29：13

民はみことばを聞き、そして主に祈りました。しかしそれは、かたちだけだ、と主は非難します。祈りのことばを吐いてはいても心は主から遠く離れている、と。それはみことばを、神のことばとしてではなく、人間の命令のように、ただの教訓のように聞いていたからです。神さまは今、あなたを見つめ、あなたに語っておられるのです。主のことばが聞こえますか？

10月23日（水）

今日の聖書日課：イザヤ 30：1～17

イスラエルの聖なる方、神である主はこう言われる。「立ち返って落ち着いていれば、あなたがたは救われ、静かにして信頼すれば、あなたがたは力を得る。」しかし、あなたがたはこれを望まなかった。

イザヤ 30：15

「しかし、あなたがたはこれを望まなかった」のです。わかってるんです。落ち着いて、静かにし、主の声を聞き、主に信頼すれば救われる、ということ。しかしわかっちゃいるけど…、ということ。主だけに頼るのではなく、エジプトとの同盟によってアッシリアの力から自らを守ろうとするユダの民。大切なことは、みことばを聞いてそれを望むこと、望んで聞き従うことです。

10月24日（木）

今日の聖書日課：イザヤ 30：18～33

たとえ主があなたがたに 苦しみのパンと虐げの水を与えても、あなたを教える方はもう隠れることはなく、あなたの目はあなたを教える方を見続ける。

イザヤ 30：20

主は民に対して隠れるようなお方ではありません。やましいことなどないからです。民には主が隠れているように見えたのです。自分たちが主の前に隠れていたから。エデンの園におけるアダムとエバのように。あわれみ豊かな主は、もう隠れることはない、と言われます。つまり民は、自分を教える方、すなわち主を見続けることができるのです。そんなに状況が苦しくなってもこのお方を見続けて、「これが道だ、これに歩め」ということばを、その耳で聞くことができるのです。(21)。

10月25日（金）

今日の聖書日課：イザヤ 31：1～9

帰れ、イスラエルの子らよ。あなたがたが反抗を強めているその方のもとに。

イザヤ 31：6

ずばり主は言われます「帰れ」と。「あなたがたが反抗を強めている方のもとに」と。彼らが銀や金の偽りの神々を造り、それを拝むこと（7）、それが主への反抗のしるしでした。しかし、そんな民に主は「帰れ」と言われるのです。「もう、帰って来るな」ではないのです。帰って、主が強国アッシリアを滅ぼすのを見よ、と主は言われるのです。

あなたにも神さまが語っておられます「帰れ」と。あなたももともとそこにいたのだから。

10月26日（土）

今日の聖書日課：イザヤ 32：1～20

しかし、ついに、いと高き所から私たちに霊が注がれ、荒野が果樹園となり、果樹園が森とみなされるようになる。

イザヤ 32：15

「しかし、ついに」とは、不信仰な民であるのかかわらず、あわれみの計画がついに、ということ。それは霊、主の霊が注がれて、荒れていた国が建て直されるということ。一方的な恵み。やがて、メシア、キリスト・イエスが来られ、十字架と復活の救いを完成され、その後、聖霊が注がれるということでこの預言は成就しました。主イエスを信じる人に聖霊が注がれます。神さまはあなたにとっても「しかし」そして「ついに」の方です。

10月27日（日） 礼拝説教箇所：Ⅱテモテ 3：10～17 「だれから学んだ？」

みことばを学ぶことが大切です。同時に、だれから学んだか、も大切です。